



新スリムシティさっぽろ計画 事業評価シート

【事業の概要】

事業名	2R推進費（ごみ減量キャンペーン）			
事業内容 （取組内容）	ごみの減量を進める上で特に重要なリデュースとリユースの推進を行う。 ・ごみ減量キャンペーンの実施			
事業の目的・目標	2Rに係る普及啓発事業を行い、市民のごみ減量行動促進を図る。			
事業の指標	指標1	生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合	目標	95%
	指標2	家庭から出る生ごみの減量（平成28年度比）	目標	1万t以上
所管課	循環型社会推進課	関係課	-	

【新スリム計画との関わり】

対応するスリム目標 （最大2つまで）	ごみ排出量の減量目標 家庭から出る生ごみ量の減量目標	 
対応するモニター指標	家庭から出る食品ロス量	
対応施策：大	施策1 2Rを推進するためのしくみづくり	
施策：中	1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践	
施策：小	(1) 発生・排出抑制行動の習慣化の促進	
他の施策（番号のみ）	1-2-(1)、(2) 1-3-(1)、(2) 2-1-(1)、(2) 4-3-(1)	

【各年度における具体的な取組内容とその実績】 数値で示せるものは数値も記載すること

H30	事業費	<ul style="list-style-type: none"> 啓発冊子配布：リユース促進72,909部、食品ロス削減啓発58,768部、期限表示情報提供45,632部、水切り啓発6,568部。 イベント：冷蔵庫整理や収納等のセミナーを実施し1,044人の参加。日本リユース業協会加盟店と連携しリユースショップ買取金額アップクーポンを4,617枚配布。 使用媒体：新聞・雑誌・フリペーパー広告、ラジオ、交通広告、映画館CM、Youtube、Facebook（40～50代ファミリー層をメインターゲットに選定）
	全 33,861 千円 内 (28,366) 千円	
R1	事業費	<ul style="list-style-type: none"> 啓発冊子配布：リユース促進80,349部、食品ロス削減啓発・期限表示情報提供94,740部、水切り啓発60,565部。 イベント：民間のイベントにブース出展し、整理収納アドバイザーによるステージトークショー等を実施。6,301人の来場。 使用媒体：テレビ番組、新聞広告、交通広告、地下歩行空間壁面広告、Youtube、Facebook（広く市民へ周知することができる媒体を選定）
	全 33,298 千円 内 (28,366) 千円	
R2	事業費	<ul style="list-style-type: none"> 啓発冊子配布：リユース促進798部、食品ロス削減啓発・期限表示情報提供159,723部、水切り啓発44,914部、使い捨てプラスチック削減114,809部。 イベント：新型コロナウイルス感染症のため見合わせ。 使用媒体：テレビ、ラジオ、インターネット広告、交通広告、新聞、地下歩行空間壁面広告、Facebook等（広く市民へ周知することができる媒体を選定）
	全 28,423 千円 内 (22,981) 千円	
R3	事業費	<ul style="list-style-type: none"> 啓発冊子配布：リユース促進2,600部、食品ロス削減啓発19,438部、期限表示情報提供・水切り啓発16,972部、使い捨てプラスチック削減2,466部。 イベント（企画）：SNSハッシュタグキャンペーンの実施。48人の参加。 使用媒体：使用媒体：テレビ、ラジオ、インターネット広告、交通広告、地下歩行空間壁面広告、Facebook等（20～30代世帯をメインターゲットに選定）
	全 27,194 千円 内 (22,741) 千円	

※事業費 上段：小事業全体 下段：実際の事業費 小事業内に関係のない予算がある場合、違う数値となる

【自己評価】 ※H30～R3を通して

スリム目標への貢献度	定量的評価（数値あり）		定性的評価（数値なし）
	達成状況		—
事業の実施結果 （目的・目標の達成状況など）	<ul style="list-style-type: none"> ・H30～R1は「食品ロス削減」と「リユースの促進」、R2～R3は「食品ロス削減」と「使い捨てプラスチック削減」に重点を置いた啓発を行った。 ・指標1は、H30は93.5%、R1は94.6%、R2は93.1%、R3は93.0%と高い割合を維持しており、指標2についても、本事業だけの目標ではないが、計画の基準年度であるH28の95,756トンからR3で94,954トンと減少傾向にあり、本事業の効果は出ていると考える。 ※指標1は「生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査業務報告書」より 		
事業の評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前までは民間のイベントにブース出展し、セミナーやトークショーの開催等を多く行っていたが、コロナ感染症拡大以降、ブース出展可能なイベントが減少。 ・ごみ減量キャンペーンキャッチコピーの認知度はH30は28.8%、R1は25.8%、R2は29.2%、R3は15.6%であり、R3は他の年と比較すると低い数値であったことから、結果を踏まえ、啓発手法の検討が必要。 ・また、啓発効果が必ずしもごみ減量には繋がっておらず、効果測定の方法も確立していないため、キャンペーンでの啓発によるごみ減量効果をどのように把握していくか検討する必要がある。 		
今後の事業方針 （課題への対応や事業目標の設置）	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量キャンペーンでの具体的な数値目標を設定し、目標達成に向けた効果的な企画提案を募り、メディア、交通広告、インターネット広告等、様々な媒体を使った普及啓発を行う。また、店舗でのポスター掲出依頼等、民間企業や団体と積極的に連携を図る。 ・キャンペーンでの普及啓発のほかにごみ減量の行動を市民に促していく取組について検討していく。 		

【懇話会の意見等】 懇話会で意見があった場合のみ記載する


意見・提案等	
--------	--

新スリムシティさっぽろ計画 事業評価シート

【事業の概要】

事業名	2R推進費（市民・事業者・団体との取組）			
事業内容 （取組内容）	ごみの減量を進める上で特に重要なリデュースとリユースの推進を行う。 ①ごみ減量実践活動ネットワークへの負担金 ②資源回収ボックス設置助成金 ③古着拠点回収の周知 ④スーパーマーケット事業者・市民団体と連携したレジ袋削減			
事業の目的・目標	2Rに係る普及啓発事業を行い、市民のごみ減量行動促進を図る。			
事業の指標	指標1	生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合	目標	95%
	指標2	家庭から出る生ごみの減量（平成28年度比）	目標	1万t以上
所管課	循環型社会推進課	関係課	-	

【新スリム計画との関わり】

対応するスリム目標 （最大2つまで）	ごみ排出量の減量目標 家庭から出る生ごみ量の減量目標	12 つくる責任 つかう責任 
対応するモニター指標	家庭から出る食品ロス量	
対応施策：大	施策1 2Rを推進するためのしくみづくり	
施策：中	1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践	
施策：小	(3) 市民・事業者・関係団体との協働によるごみ発生・排出抑制の推進	
他の施策（番号のみ）	1-1-(1)、1-2-(1)、(2) 1-3-(1)、(2) 2-1-(1)、(2) 4-3-(1)	

【各年度における具体的な取組内容とその実績】 数値で示せるものは数値も記載すること

H30	事業費	①子ども向け環境教育出張講座を27回実施し、645人の参加。スリムネットフォーラムを実施し、200人の参加。簡易包装の取組を実施している商品を市役所ロビー展示で紹介。「制服リユース活動」をホームページで周知。 ②資源回収ボックスはマーキング1件助成。 ③古着回収量153.6t。子ども服等の寄付を受ける「福服ギフト」をホームページで周知。 ④マイバッグ等持参率:85%、レジ袋削減量（枚数）:112,643,989枚
	全 33,861 千円 内 (5,495) 千円	
R1	事業費	①子ども向け環境教育出張講座を28回実施し、793人の参加。スリムネットフォーラムはコロナ影響で中止。簡易包装の取組を実施している商品を市役所ロビー展示で紹介。「制服リユース活動」をホームページで周知。 ②資源回収ボックスは新規設置3件、更新1件、マーキング6件助成。 ③古着回収量168.8t。子ども服等の寄付を受ける「福服ギフト」をホームページで周知。 ④マイバッグ等持参率:86%、レジ袋削減量（枚数）:113,897,621枚
	全 33,298 千円 内 (4,932) 千円	
R2	事業費	①子ども向け環境教育出張講座を14回実施し、280人の参加。スリムネットフォーラムを実施し、37人の参加。簡易包装の取組を実施している商品を市役所ロビー展示で紹介。「制服リユース活動」をホームページで周知。 ②資源回収ボックスは新規設置1件、更新1件、マーキング2件助成。 ③古着回収量31.5t。子ども服等の寄付を受ける「福服ギフト」をホームページで周知。 ④マイバッグ等持参率:87%、レジ袋削減量（枚数）:115,313,573枚
	全 28,423 千円 内 (5,442) 千円	
R3	事業費	①子ども向け環境教育出張講座を4回実施し、106人の参加。スリムネットフォーラムを3月に実施予定。簡易包装の取組を実施している商品を市役所ロビー展示で紹介。「制服リユース活動」をホームページで周知。 ②資源回収ボックスは助成実績なし。 ③古着回収量18.1t。子ども服等の寄付を受ける「福服ギフト」をホームページで周知。 ④マイバッグ等持参率:86%、レジ袋削減量（枚数）:113,126,118枚
	全 27,194 千円 内 (3,600) 千円	

※事業費 上段:小事業全体 下段:実際の事業費 小事業内に関係のない予算がある場合、違う数値となる

【自己評価】 ※H30~R3を通して

スリム目標への貢献度	定量的評価（数値あり）	定性的評価（数値なし）
	<p>達成状況</p> <p>◎：達成 ○：75%以上 ▲：50%以上 ×：50%未満 -：他</p> <p>・ごみ減量実践活動ネットワーク：市民、事業者と協力し、スリムネットフォーラムやロビー展の実施などを行い、多くの市民の参加があった。 ・古着回収：地区リサイクルセンター・清掃事務所等のほか、札幌クリーニング協同組合の協力により、市内に多くの拠点を設置。 ・レジ袋削減：協定を締結しているスーパーマーケットのマイバッグ等持参率において、H30は85%、R1は86%、R2は87%、R3は86%と全国平均（R3：76.5%、2021年「スーパーマーケット年次統計調査報告書」P87）と比べても高い水準を維持している。 ・指標1は、H30は93.5%、R1は94.6%、R2は93.1%、R3は93.0%と高い割合を維持しており、指標2についても、本事業だけの目標ではないが、計画の基準年度であるH28の95,756トンからR3で94,954トンと減少傾向にあり、本事業の効果は出ていると考える。 ※指標1は「生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査業務報告書」より</p>	
事業の実施結果 （目的・目標の達成状況など）	<p>・ごみ減量実践活動ネットワーク：コロナ前までは順調に進んでいたが、コロナ感染症拡大以降は、集客イベントの機会の減少や会場人数制限により、開催回数や参加人数が減少したため、今後、どのように進めていくかは課題。 ・古着回収：コロナ前までは市内多くの拠点で回収していたが、コロナの影響で令和2年5月からクリーニング店での回収が停止し、回収可能な拠点が減少。 ・レジ袋削減については、協定を締結しているスーパーマーケットの持参率は高い水準を維持しており、協定の効果が出ている。さらなるごみの減量を進めるため、今後はその他の取組についても、事業者・団体と連携していくことが必要と考える。</p>	
事業の評価・課題	<p>・ごみ減量実践活動ネットワーク：一部事業では実験的に開始しているが、コロナ対策として、オンラインを活用した普及啓発方法を検討していく。 ・古着回収：クリーニング店での回収再開の可否について適宜状況を確認するとともに、回収拠点が減少した際の代替案として、民間事業者が独自で行う古着回収の取組について、本市媒体で周知することを検討する。 ・レジ袋以外の使い捨てプラスチック製品や食品ロスなどのリデュースやリユースについても、事業者・団体と連携をしながら取り組んでいく。</p>	
今後の事業方針 （課題への対応や事業目標の設置）	<p>・ごみ減量実践活動ネットワーク：一部事業では実験的に開始しているが、コロナ対策として、オンラインを活用した普及啓発方法を検討していく。 ・古着回収：クリーニング店での回収再開の可否について適宜状況を確認するとともに、回収拠点が減少した際の代替案として、民間事業者が独自で行う古着回収の取組について、本市媒体で周知することを検討する。 ・レジ袋以外の使い捨てプラスチック製品や食品ロスなどのリデュースやリユースについても、事業者・団体と連携をしながら取り組んでいく。</p>	

【懇話会の意見等】 懇話会で意見があった場合のみ記載する


意見・提案等	
--------	--

新スリムシティさっぽろ計画 事業評価シート

【事業の概要】

事業名	2R推進費（子どものおもちゃのリユース）		
事業内容 （取組内容）	ごみの減量を進める上で特に重要なリデュースとリユースの推進を行う。 ・子どものおもちゃのリユース促進		
事業の目的・目標	2Rに係る普及啓発事業を行い、市民のごみ減量行動促進を図る。		
事業の指標	指標1	家庭から出る廃棄ごみ量の減量	目標 1人一日あたり 340g以下
	指標2		目標
所管課	循環型社会推進課	関係課	—

【新スリム計画との関わり】

対応するスリム目標 （最大2つまで）	ごみ排出量の減量目標	
対応するモニター指標	—	
対応施策：大	施策1	2Rを推進するためのしくみづくり
施策：中	1-3	リユース機会の提供
施策：小	(1)	リユースの促進に向けた取組
他の施策（番号のみ）	1-1(1)、(3) 4-3-(1)	

【各年度における具体的な取組内容とその実績】 数値で示せるものは数値も記載すること

H30	事業費	8/31～9/28の期間で255.3kgのおもちゃ等を回収し、イベント提供とリユースプラザでの常設提供により、255.2kgの提供を行った。	
	全		20,742 千円
	内		(167) 千円
R1	事業費	平成30年度のおもちゃ等回収量が少量であったことや、安全面（電池の発火やぬいぐるみからのアレルギー発症等）、衛生面の問題があることから、事業の見直しを行い、おもちゃ等の回収・提供事業を終了することとした。	
	全		- 千円
	内		- 千円
R2	事業費	-	
	全		- 千円
	内		- 千円
R3	事業費	-	
	全		- 千円
	内		- 千円

※事業費 上段:小事業全体 下段:実際の事業費 小事業内に関係のない予算がある場合、違う数値となる

【自己評価】 ※H30～R3を通して

事業の項目	定量的評価（数値あり）		定性的評価（数値なし）
	スリム目標への貢献度	H30年度は255.34 kgおもちゃを回収し、リユースプラザにおけるイベント提供や中島公園でのフリーマーケットなどで提供することで、ごみの減量に貢献した。	
事業の実施結果 （目的・目標の達成状況など）	達成状況	—	(◎:達成 ○:75%以上 ▲:50%以上 ×:50%未満 -:他)
事業の評価・課題	<p>おもちゃの無料回収は、リユース促進の点から、啓発効果は一定程度あったと思われるが、恒常的な事業としていくには次のような課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度実施時事故の発生は無かったが、ボックス投函による回収方法を採用したため、電池からの発火の危険等の安全面の問題があり、品質管理の点から検品可能な対面回収が求められるが、ボックス設置施設側の更なる協力を得ることは難しい。また、直営での検品は困難。 ・啓発を推し進めリユース品の量を確保・維持していくには、回収・提供ともに全市的に事業展開する必要があるが、現状の直営方式ではマンパワー的に困難。 		
今後の事業方針 （課題への対応や事業目標の設置）	おもちゃを含め、各家庭で使わずにためこんでしまっているものについては、リユースショップやフリマアプリ、リサイクルプラザ等を活用して、まだ使えるうちにリユースすることを促すポスターやパンフレットを乳幼児向け施設などに掲示・配架し、リユースの促進を行っていく。		

【懇話会の意見等】 懇話会で意見があった場合のみ記載する


意見・提案等	
--------	--

新スリムシティさっぽろ計画 事業評価シート

【事業の概要】

事業名	家庭の生ごみ減量・リサイクル推進費			
事業内容 (取組内容)	各家庭から排出される生ごみ減量のための取組を行う。 ①生ごみ堆肥化セミナーの開催 ②生ごみ堆肥化相談窓口の開設 ③電動生ごみ処理機購入助成 ④生ごみ堆肥化器材購入助成 ⑤生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査の実施(隔年)			
事業の目的・目標	生ごみの減量に効果的である堆肥化が各家庭で定着を図ることに加え、新たに生ごみ堆肥化に取り組む世帯を増やすことにより、家庭から排出される生ごみ減量につなげる。			
事業の指標	指標1	生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合	目標	95%
	指標2	家庭から出る生ごみの減量(平成28年度比)	目標	1万t以上
所管課	循環型社会推進課	関係課	-	

【新スリム計画との関わり】

対応するスリム目標 (最大2つまで)	ごみ排出量の減量目標 家庭から出る生ごみ量の減量目標	
対応するモニター指標	-	
対応施策: 大	施策2 分別・リサイクルの取組促進	
施策: 中	2-3 生ごみ資源化の促進に向けた支援	
施策: 小	(1) 家庭における自主的な生ごみ資源化の支援	
他の施策(番号のみ)		

【各年度における具体的な取組内容とその実績】 数値で示せるものは数値も記載すること

H30	事業費	①「生ごみ堆肥化セミナー」を全40回実施し、計1,205人の参加。また、10名以上の団体に講師を派遣する「生ごみ堆肥化講師派遣」は9団体、計272名から申込。 ②生ごみ堆肥化相談窓口では計146件の相談。 ③電動生ごみ処理機は208個、④生ごみ堆肥化器材は291台の助成。 ⑤市民2,500人を対象に生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査実施。
	全 13,667 千円 内 (13,667) 千円	
R1	事業費	①「生ごみ堆肥化セミナー」を全40回実施し、計1,297人の参加。また、10名以上の団体に講師を派遣する「生ごみ堆肥化講師派遣」は11団体、計284名から申込。 ②生ごみ堆肥化相談窓口では計162件の相談。 ③電動生ごみ処理機は311個、④生ごみ堆肥化器材は316台の助成。
	全 15,019 千円 内 (15,019) 千円	
R2	事業費	①「生ごみ堆肥化セミナー」を全40回実施し、計654人の参加。また、10名以上の団体に講師を派遣する「生ごみ堆肥化講師派遣」は9団体、計128名から申込。 ②生ごみ堆肥化相談窓口では計232件の相談。 ③電動生ごみ処理機は305個、④生ごみ堆肥化器材は482台の助成。 ⑤市民2,500人を対象に生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査実施。
	全 14,654 千円 内 (14,654) 千円	
R3	事業費	①「生ごみ堆肥化セミナー」を29回実施し、計415人の参加。また、10名以上の団体に講師を派遣する「生ごみ堆肥化講師派遣」は5団体、計76名から申込。 ②生ごみ堆肥化相談窓口では計237件の相談。 ③電動生ごみ処理機は361個、④生ごみ堆肥化器材は461台の助成。
	全 14,429 千円 内 (14,429) 千円	

※事業費 上段:小事業全体 下段:実際の事業費 小事業内に関係のない予算がある場合、違う数値となる

【自己評価】 ※H30~R3を通して

スリム目標への貢献度	定量的評価(数値あり)	定性的評価(数値なし)
	生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合は高い水準を維持している。また、生ごみ堆肥化器材購入助成利用者の94%が生ごみ堆肥化を継続しており、市民の生ごみ減量の取組につながっている。	
事業の実施結果 (目的・目標の達成状況など)	達成状況	- (◎:達成 ○:75%以上 ▲:50%以上 ×:50%未満 -:他)
	・指標1は、H30は93.5%、R1は94.6%、R2は93.1%、R3は93.0%と高い割合を維持しており、指標2についても、本事業だけの目標ではないが、計画の基準年度であるH28の95,756トンからR3で94,954トンと減少傾向にあり、本事業の効果は出ていると考える。 ・生ごみ堆肥化セミナー:生ごみ堆肥化の作り方と作った堆肥の活用方法を教える講座を実施。参加した市民の満足度は高く、生ごみの減量に貢献している。 ・生ごみ堆肥化相談窓口:相談件数は毎年増加しており、堆肥化の取組継続支援に貢献している。 ・電動生ごみ処理機・生ごみ堆肥化器材購入助成:助成台数は毎年増加傾向にあり、生ごみの減量に貢献している。 ※指標1は「生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査業務報告書」より	
事業の評価・課題	・生ごみ堆肥化セミナー:参加者のうち、約7割が60代以上であるが、さらに家庭での堆肥化を進めていくためには、幅広い世代の参加者を増加させる必要があると考える。また、堆肥化の取組を行っていない方は市民全体で6割にもなっている(R3年「堆肥化の取組」状況)ため、更なる浸透を図っていく必要がある。 ・電動生ごみ処理機:助成件数は増加傾向にあり、令和元年以降は募集台数を上回る申込が続いていることから、助成台数の見直しが必要と考える。また、生ごみ堆肥化器材に比べ助成者の継続率が低いことも課題と考える。 ・集合住宅の居住者など、堆肥化が難しい世帯が実践できるごみ減量の取組が十分に紹介できていない。	
今後の事業方針 (課題への対応や事業目標の設置)	・生ごみ堆肥化セミナー:今後対面での講座に加えてオンラインの講座も行い、50代以下を中心に新規参加者増加を図る。 ・電動生ごみ処理機:助成上限額(20,000円)の見直し募集台数を増やすことを検討するほか、助成が出るため購入したものの、イメージと違い使用をやめてしまうという申請者を減らすため、メリットやデメリットをしっかりと周知していく。 ・水切りの徹底など、生ごみの堆肥化以外の手軽に行えるごみ減量の取り組みを検討し、周知していく。	

【懇話会の意見等】 懇話会で意見があった場合のみ記載する


意見・提案等	
--------	--

新スリムシティさっぽろ計画 事業評価シート

【事業の概要】

事業名	清掃計画費 (要望活動)			
事業内容 (取組内容)	全国都市清掃会議、大都市清掃事業協議会を通じて、循環型社会形成推進交付金や容器包装プラスチック、排出禁止物に関する事業等に関して、国への要望を行っている。			
事業の目的・目標	拡大生産者責任の原則に基づき、市町村と事業者の費用負担及び役割分担について明確にすることや、事業者責任の強化を図ることを目的としている。			
事業の指標	指標 1	—	目標	—
	指標 2	—	目標	—
所管課	循環型社会推進課	関係課	—	

【新スリム計画との関わり】

対応するスリム目標 (最大2つまで)	—	
対応するモニター指標	—	
対応施策：大	施策 1 2Rを推進するためのしくみづくり	
施策：中	1-4 国や製造・販売業界への働きかけ	
施策：小	(1) 拡大生産者責任 (EPR) の徹底	
他の施策 (番号のみ)	1-4-(2)	

【各年度における具体的な取組内容とその実績】 数値で示せるものは数値も記載すること

H30	事業費		国へ要望した主な内容 ・容プラの事業者責任の拡大 ・家電リサイクル法におけるリサイクル料金の前払い制度や電子レンジなど品目の拡大 ・適正処理困難物の指定の拡大や事業者による自主回収の推進
	全	22,740 千円	
	内	(0) 千円	
R1	事業費		国へ要望した主な内容 ・容プラの事業者責任の拡大 ・家電リサイクル法におけるリサイクル料金の前払い制度や電子レンジなど品目の拡大 ・適正処理困難物の指定の拡大や事業者による自主回収の推進
	全	17,218 千円	
	内	(0) 千円	
R2	事業費		国へ要望した主な内容 ・容プラの事業者責任の拡大 ・家電リサイクル法におけるリサイクル料金の前払い制度や電子レンジなど品目の拡大 ・適正処理困難物の指定の拡大や事業者による自主回収の推進 (加熱式たばこを追加)
	全	10,621 千円	
	内	(0) 千円	
R3	事業費		国へ要望した主な内容 ・容プラの事業者責任の拡大 ・家電リサイクル法におけるリサイクル料金の前払い制度や電子レンジなど品目の拡大 ・適正処理困難物の指定の拡大や事業者による自主回収の推進 ・プラ資源循環促進法に係る拡大生産者責任の促進
	全	29,095 千円	
	内	(0) 千円	

※事業費 上段:小事業全体 下段:実際の事業費 小事業内に関係のない予算がある場合、違う数値となる

【自己評価】 ※H30~R3を通して

スリム目標への貢献度	定量的評価 (数値あり)		定性的評価 (数値なし)	
	達成状況			
事業の実施結果 (目的・目標の達成状況など)	—	(◎:達成 ○:75%以上 ▲:50%以上 ×:50%未満 -:他)		
事業の評価・課題	・加熱式たばこの自主回収を要望し、令和3年4月から一部のメーカーで自主回収が始まった。 ・その他の要望は、実現していない。 ・加熱式たばこの自主回収において少しだけ前進があった。 ・その他の要望は成果が出ていない状況だが、実現が難しいものであり、簡単に成果がでないのはやむを得ないと考ええる。 ・引き続き継続して要望を行っていくことが必要である。			
今後の事業方針 (課題への対応や事業目標の設置)	他都市と協力しながら、継続して要望を行っていく。			

【懇話会の意見等】 懇話会で意見があった場合のみ記載する

意見・提案等	
--------	--